

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望＝ドル円は高値圏でのみ合いが継続か

〔6月29日からの1週間の展望〕

| 週間高低（カッコ内は日）  |           | 6月22日～6月26日 |            |        |         |
|---------------|-----------|-------------|------------|--------|---------|
| 始値            | 高値        | 安値          | 終値         | 前週比    |         |
| ドル・円          | 161.22    | 161.95(25)  | 161.08(22) | 161.71 | +0.41   |
| ユーロ・ドル        | 1.1473    | 1.1478(22)  | 1.1325(24) | 1.1374 | -0.0097 |
| =====         |           |             |            |        |         |
| 国内株・金利／米国株・金利 |           | 終値          |            | 前週末比   |         |
| 日経平均株価        | 69,360.88 | -1889.18    | 日本10年債利回り  | 2.617  | -0.039  |
| ダウ平均株価        | 51,920.62 | +355.92     | 米10年債利回り   | 4.392  | -0.061  |
| =====         |           |             |            |        |         |

<来週の主要経済統計等>

29日 日本5月小売業販売額

30日 日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率

日本5月鉱工業生産指数速報値

中国6月製造業PMI

英第1四半期GDP確報値

スイス6月KOF先行指数

独6月雇用統計、独6月消費者物価指数速報値

カナダ4月GDP

米4月住宅価格指数、米4月S&Pケースシャー住宅価格指数

米6月シカゴ購買部協会景気指数

米6月消費者信頼感指数

米5月雇用動態調査（JOLTS）求人件数

1日 日銀短観（6月調査）

豪5月住宅建設許可件数

中国レイティングドッグ製造業PMI

スイス5月小売売上高

独6月製造業PMI確報値

ユーロ圏6月製造業PMI確報値

英6月製造業PMI確報値

ユーロ圏6月消費者物価指数速報値

米6月ADP雇用統計

米6月製造業PMI確報値

米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出

※ECBフォーラムのパネル討論会

ウォーシュFRB議長、ラガルドECB総裁らが参加

2日 豪5月貿易収支

スイス6月消費者物価指数

ユーロ圏5月雇用統計

米6月雇用統計、米新規失業保険申請件数

米5月製造業受注

3日 独6月サービス業PMI確報値

ユーロ圏6月サービス業PMI確報値

英6月サービス業PMI確報値

※米国市場は休場（独立記念日の振替休日）

【前回のレビュー】FOMCのタカ派的な姿勢を受けてドルの堅調な地合いが続く中、ドル円は緩やかに上値を試す展開が見込まれる。介入警戒感が上昇ペースを鈍化させる

可能性はあるものの、ドル買い主導の状況下では政府・日銀による為替介入の効果が限定的となり、十分な成果を上げにくいとみられる。そのため、ドル円は堅調な地合いを維持する見通しとした。

#### 【F R B のタカ派姿勢がドル買いにつながっている】

6月16～17日の米連邦公開市場委員会（F O M C）では、政策金利自体は想定通りに据え置きだったものの、F O M C委員の金利見通し（ドットチャート）によると、18人中、半数の9人が年末までに1回以上の利上げを予想する結果となった。

また、経済見通し（S E P）でもインフレ見通しが大幅に上方修正され、2026年末時点の個人消費支出（P C E）物価指数は3.6%（3月時点2.7%）、P C Eコア物価指数は3.3%（同2.7%）へと引き上げられた。総じて6月のF O M Cは市場の想定以上にタカ派的な内容となり、F R Bによる利上げ継続への期待がドル買いを誘っている。

25日には多くの米主要経済指標が発表された。5月の米個人消費支出（P C E）デフレーター（価格指数）は前年比+4.1%、コア指数は前年比+3.4%となり、いずれも市場予想に一致したものの、前月からは伸びが加速する結果となった。また、米第1四半期実質G D P 確報値は前期比年率+2.1%と市場予想（+1.6%）を上回った。一方で、G D Pの約7割を占める個人消費が+0.5%にとどまり、市場予想（+1.4%）を大きく下回るなど、強弱入り混じる内容となった。

個人消費の下振れが警戒され、米10年債利回りが4.41%近辺から4.39%付近まで低下すると、為替市場は一時ドル売りに傾いた。ドル円は一連の指標発表前に161.90円台まで上昇していたものの、指標発表後は161.50円台まで軟化。しかし、その後は再び161.80円台まで買い戻されるなど、底堅い動きを見せている。

#### 【米雇用統計など米経済指標に注目】

2日の米6月雇用統計を筆頭に、今週は注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。具体的には、6月30日の米5月雇用動態調査（J O L T S）求人件数を皮切りに、7月1日には米6月A D P雇用統計と米6月I S M製造業景況指数、そして2日には米6月雇用統計の発表が控える。なお、独立記念日の振替休日の影響により、今回の雇用統計は金曜日ではなく2日（木）に前倒しで発表される。

主な経済指標の事前予想と前回値は次の通り。6月30日の米5月雇用動態調査（J O L T S）求人件数は727.5万人（前回761.8万人）、7月1日の米6月A D P雇用統計が11.8万人増（前回12.2万人増）、米6月I S M製造業景況指数が53.8（前回54.0）。そして2日の米6月雇用統計は、非農業部門雇用者数が11.5万人増（前回17.2万人増）、失業率は4.3%（前回4.3%）の見通しとなっている。全体として米労働市場の軟化を示す予想が並んでいる。

米経済指標は強弱入り混じる展開が続いているものの、今週の米雇用統計をはじめとする一連の指標は総じて底堅い内容となり、米経済の堅調さを改めて示すとみられる。事前の想定通り底堅さが確認できれば、ドル買いを後押しする材料となりそうだ。

ドル円は6月25日、2024年7月3日につけた高値161.95円に面合わせした。同水準近辺では為替介入への警戒感から上値が抑えられているものの、ドルの堅調な地合いは維持される見通し。ドル買い主導の上昇局面においては介入効果も限定的にとどまりやすいため、ドル円は底堅さを保ちつつ高値圏でのみみ合いで推移することになりそうだ。目先の予想レンジは159.00～163.00円。

6月29日の週に予定される日米の経済指標やイベントには、29日の日本5月小売業販売額、30日の日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率、日本5月鉱工業生産指数速報値、米4月住宅価格指数、米4月S & Pケースシラー住宅価格指数、米6月シカゴ購買部協会景気指数、米6月消費者信頼感指数、米5月雇用動態調査（J O L T S）求人件数、1日の日銀短観（6月調査）、米6月A D P雇用統計、米6月製造業P M I 確報値、米6月I S M製造業景況指数、米5月建設支出、2日の米6月雇用統計、米新規失業保険申請件数、米5月製造業受注、3日の米国市場は休場（独立記念日の振替休

日) などがある。

【ユーロドルはさらに下値を探る展開か】

6月23日発表の欧州の6月購買担当者景気指数(PMI)速報値は、おおむね市場予想を下回る弱い結果となった。ドイツの製造業PMIは50.0(予想50.2)、サービス業PMIは46.8(予想49.0)と、いずれも市場予想を下回った。ユーロ圏ではサービス業PMIが48.9(予想48.6)と予想を上回ったものの、製造業PMIは51.3(予想51.6)と下振れた。

6月FOMCでのタカ派姿勢への転換を背景にドル高地合いが続く中、こうしたユーロ圏経済の減速懸念がユーロ安ドル高の流れを加速させており、ユーロドルは下落基調で推移している。足元では節目の1.1400ドルを割り込んでおり、下向きで推移する5日移動平均線に上値を抑えられながら、さらに下値を探る展開となりそうだ。目先の予想レンジは1.1200～1.1500ドル。

22日に英国ではスターマー首相が辞任を表明した。後継候補としてはバーナム氏が有力視されている。こうした中でポンドドルは1.3270台まで上昇した。23日には6月のPMIが発表となり、製造業PMIは53.1となり、市場予想の53.5を下回った。サービス業PMIは48.7となり、市場予想の50.1を下回るとともに、好不況の境目とされる50を割り込んだ。

こうした中、ポンドドルは軟調な動きを見せている。さらにドルの堅調な動きも加わり、24日には1.3130台まで下落している。ポンドドルの下落ペースは鈍化しているものの、5日移動平均線に上値を抑えられており、引き続き軟調な推移が見込まれる。目先の予想レンジは1.3000～1.3400ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、30日の英第1四半期GDP確報値、スイス6月KOF先行指数、独6月雇用統計、独6月消費者物価指数速報値、カナダ4月GDP、1日の豪5月住宅建設許可件数、中国レイティングドッグ製造業PMI、スイス5月小売売上高、独6月製造業PMI確報値、ユーロ圏6月製造業PMI確報値、英6月製造業PMI確報値、ユーロ圏6月消費者物価指数速報値、2日NO豪5月貿易収支、スイス6月消費者物価指数、ユーロ圏5月雇用統計、3日の独6月サービス業PMI確報値、ユーロ圏6月サービス業PMI確報値、英6月サービス業PMI確報値などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。